

各火山の 5 月の活動解説

【北海道地方】

めあかんだけ 雌阿寒岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

4 月 15 日から 18 日にかけて、ポンマチネシリ火口付近の浅い所を震源とする微小な地震が増加し、その後も回数やや多い状態が継続している。

全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ 96-1 火口南側の地下では、2015 年 3 月中旬以降温度が上昇している可能性が考えられる。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

とちだだけ 十勝岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

13 日朝から 16 日未明にかけて、62-2 火口付近のごく浅い所（海拔 0 km 以浅）を震源とする規模の小さな火山性地震が増加し、15 日には振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が発生したが、62-2 火口や大正火口の噴煙の状況に大きな変化はなかった。

ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生及び発光現象などが観測されており、長期的にみると十勝岳の火山活動は高まる傾向にあるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

たるまえさん 樽前山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

11 日夜から 12 日にかけて、山頂溶岩ドーム直下のごく浅い所（海拔 0 km 付近）を震源とする微小な火山性地震が一時的に増加した。地震増加時に火山性微動は発生しておらず、噴気活動や地殻変動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

山頂溶岩ドーム周辺では 1999 年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

アトサヌプリ [噴火予報（活火山であることに留意）]

たいせつざん 大雪山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

くつたら 倶多楽 [噴火予報（活火山であることに留意）]

うずざん 有珠山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

ほっかいどうこまがたけ 北海道駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

えさん 恵山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

【東北地方】

いわてさん 岩手山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動は静穏に経過した。火山性地震が一時的に増加することもあるが、その他の火山活動に変化はなく、噴火の兆候は認められない。

あきたこまがたけ 秋田駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

めだけ 女岳では、2009 年から地熱域の拡大が認められている。地震活動は低調で、地殻変動及び噴気活動にも大きな変化はみられないが、地熱活動が継続しているので今後の火山活動の推移に注意が必要である。

さおうざん 蔵王山 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

4 月 7 日以降、御釜付近が震源と推定される火山性地震が増加し、火山性微動が発生するなど火山活動が活発となった。5 月 8 日から 11 日にかけて火山性地震が多い状態となった。12 日以降、地震回数は増減を繰り返しながら少ない状態で経過している。11 日及び 29 日に実施した現地調査、26 日に宮城県との協力により実施した上空からの観測では、御釜とその周辺に噴気及び地熱域はみられなかった。また、丸山沢噴気地熱地帯をはじめ想定火口域（馬の背カルデラ）内に異常は認められなかった。

想定火口域（馬の背カルデラ）から概ね 1.2 km の範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では火山灰や小さな噴石¹⁾が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

あづまやま 吾妻山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

大穴火口付近直下を震源とする火山性地震が 3 日以降増加し、6 日には日回数が 110 回と多い状態となり、6 日 03 時 20 分頃に火山性微動が発生した。大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。

7 日に実施した現地調査では、2013 年以降拡大がみられている地熱域を引き続き確認した。浄土平の傾斜計²⁾では、2014 年 4 月以降、緩やかな西側（火口方向）上がりの変動が継続している。GNSS³⁾連続観測では、2014 年 9 月頃から一切経山南山腹観測点が関係する基線で緩やかな変化がみられており、一切経山付近の膨張を示唆すると考えられる。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性があるため、大穴火口から概ね 500 m の範

囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石¹⁾、火山ガスに注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

いわきさん

岩木山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

あきたやけやま

秋田焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

ちょうかいさん

鳥海山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

くりこまやま

栗駒山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

あだたらやま

安達太良山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

ばんだいさん

磐梯山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

【関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島】

くさつしらねさん

草津白根山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

2014 年 3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加している。2014 年 8 月 20 日以降はやや少ない状態で経過しているが、2015 年 1 月以降一時的な地震の増加がみられる。地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められている。12 日に実施した現地調査では、湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側に当たる斜面で熱活動の活発な状態が継続していた。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられる。また、全磁力観測によると 2014 年 5 月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、7 月以降停滞している。

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石¹⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

あさまやま

浅間山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

山頂火口直下のごく浅い所を震源とする火山性地震及び火山性微動が 2014 年頃から増加傾向となっている。火山性地震は 4 月下旬頃から

さらに増加している。その他のデータには特段の異常は認められない。

現時点では、噴気等の状況に特段の変化はみられないが、長期的な地震増加がみられるなどの活動の高まりがみられる。山頂火口から 500 m 以内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性があるため、火山灰噴出や火山ガス等に警戒が必要である。

みだかはら

弥陀ヶ原 [噴火予報（活火山であることに留意）]

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過した。

以前から熱活動が活発な立山地獄谷では、2012 年 6 月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されていることから、今後の火山活動の推移に注意が必要である。また、この付近では火山ガスが高濃度になることがあるため、注意が必要である。

おんたけさん

御嶽山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）]

御嶽山の火山活動は低下してきており、2014 年 9 月 27 日と同程度、またはそれを上回る規模の噴火が発生する可能性は低くなっている。一方、火口列からの噴煙活動や地震活動が続いていることから、今後も小規模な噴火が発生する可能性がある。

遠望カメラ等による観測では、白色の噴煙が火口縁上 100～800m で経過している。

火山性地震は少ない状態で経過しているが、2014 年 8 月以前の状況には戻っていない。

2 日及び 28 日には低周波地震をそれぞれ 1 回観測した（4 月：1 回）。これらの地震の発生時及びその前後で、噴煙や地殻変動の観測データに火山活動の高まりを示す変化はみられていない。火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾と火砕流に警戒が必要である。これに加えて南西側（地獄谷方向）では火口から概ね 2.5 km まで火砕流に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石¹⁾が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流の可能性があるので注意が必要である。

ふじさん

富士山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

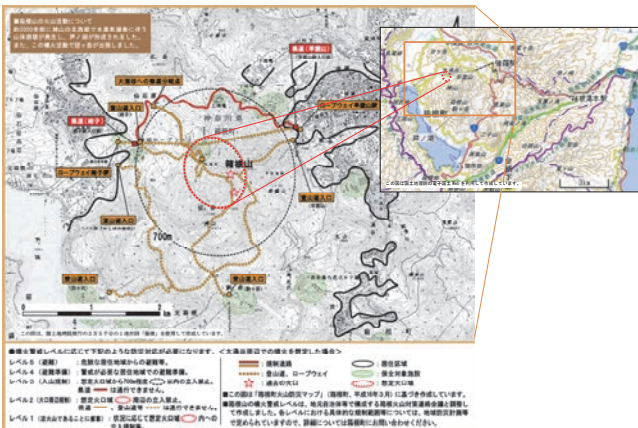
2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていたが、その後、地震活動は低下してきている。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはない。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認

められない。

箱根山[火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]←6日に噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）に引上げ

4月26日以降増加している火山性地震は引き続き多い状態で経過している。箱根町湯本などで震度1以上を観測する地震が19回発生した。5月15日には火山性地震の日回数が442回となり、2001年以降で最多となった。地殻変動観測によると今回の火山活動に関連するとみられる地殻変動も観測されている。また、5月3日から大涌谷の温泉供給施設で蒸気が勢いよく噴出しているのが確認されている。これらのことから、5月6日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）に引き上げた。

大涌谷周辺では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。また、風下側では火山灰や小さな噴石¹⁾が風に流されて降るおそれがあるため、注意が必要である。



警戒が必要な範囲：大涌谷周辺の想定火口域（図の赤円内）

伊豆大島[噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山性地震は少ない状態で経過している。GNSS³⁾連続観測では、地下深部へのマグマの供給によると考えられる島全体の膨張傾向が続いている。2011年頃から鈍化していたが、2013年8月頃から再び膨張傾向がみられる。その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められないが、山体の膨張が続いていることから、今後の火山活動に注意が必要である。

三宅島[火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、

2013年2月以降はやや少量となっている。

13日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり200トン（前回4月16日：200トン）と、やや少ない状態で経過した。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。

GNSS³⁾連続観測によると、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞している。島内の長距離の基線線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

火口周辺（雄山環状線内側）に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性は低くなっているが、噴煙活動は続いており火口近傍に火山灰等が噴出する可能性がある。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに警戒が必要である。

西之島[火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石¹⁾等の堆積や溶岩の流出が継続し、新たな陸地の拡大が続いている。

12日、19日に第三管区海上保安本部が、20日、26日に海上保安庁が上空からの観測を実施し、第7火口での噴火活動の継続を確認した。

第7火口の火砕丘北東斜面から溶岩が流出し、火砕丘東側を回り込んで扇型に拡がりながら南東方向へ流下していた。南東方向へ流下した溶岩流は海岸線に達し、先端部で白煙を上げていた。新たな陸地の大きさは、東西方向に約2,000m、南北方向は約1,900m、面積は約2.57km²（前回3月27日：約2.45km²）であった。

溶岩流が海岸線に達している付近に、薄い茶褐色の変色水が分布し、西之島周囲の海岸線には、薄い黄緑色の変色水が分布していた。20日の観測では、西之島の南西方向約10kmの海上に東西約4,000m、南北約2,000mの帯状の薄い黄緑色の変色水が分布しているのが確認された。

西之島及び新たな陸地には、津波を発生させる恐れのある断層やクラックは認められなかった。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられる。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾や水面を高速で広がるベースサージ⁴⁾等の影響が概ね2kmの範囲に及ぶおそれがある。

西之島の中心から概ね4km以内の範囲では噴火に警戒が必要である。

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震はやや少ない状態で経過している。GNSS³⁾ 連続観測によると、地殻変動は 2014 年 12 月上旬頃から隆起の傾向がみられ、2015 年 3 月頃から隆起速度が上がっている。その他の観測データに特段の異常は認められない。

島北西部の井戸ヶ浜では、22 日 14 時 58 分と 17 時 33 分及び 24 日 18 時 25 分と 18 時 41 分に最大 100m の水蒸気の噴出を観測した。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生している。このことから火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生している地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒が必要である。

福岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

26 日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、福岡ノ場付近の海面で火山活動によるとみられる変色水等は認められていない。

福岡ノ場では長期にわたり火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010 年 2 月 3 日には小規模な海底噴火が発生している。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に警戒が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

那須岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

日光白根山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

新潟焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

焼岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

白山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

乗鞍岳 [噴火予報（活火山であることに留意）]

伊豆東部火山群 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

新島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

神津島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

八丈島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

青ヶ島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

【九州地方及び南西諸島】

阿蘇山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

中岳第一火口では、21 日まで断続的に噴火が発生した。1 日には、灰白色の噴煙が火口縁上 1,000m 以上まで上がった。噴火に伴い、熊本県、大分県、宮崎県の一部の地域で降灰があったと推定される。

二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 900~1,700 トン（4 月：1,500 トン）と概ね多い状態で経過した。

火山性微動の振幅は、消長を繰り返しながら、概ね大きな状態で継続した。3 日 22 時 04 分に、継続時間約 5 分間の振幅の大きな火山性微動が発生し、南阿蘇村中松で震度 1 を観測した。3 日の火山性微動発生後に実施した 5 日の現地調査では、中岳第一火口内の 141 火孔⁵⁾ の南側が陥没していることを確認した。

8 日 12 時 58 分に、中岳第一火口付近のごく浅い所を震源とする地震が発生し、南阿蘇村中松で震度 3 を観測した。地震の前後で噴煙や地殻変動の状況に特段の変化は認められなかった。

GNSS³⁾ 連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線の伸びは、2015 年 3 月頃から停滞している。

中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾ に警戒が必要である。火口周辺では強風時に小さな噴石¹⁾ が 1 km を超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石¹⁾ にも注意が必要である。

霧島山（新燃岳） [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は減少したが、3 月中旬以前よりもやや多い状況が続いている。GNSS³⁾ 観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられていたが、2015 年 1 月頃から停滞している。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性があるため、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾ に警戒が必要である。風下側では火山灰だけではなく小さな噴石¹⁾（火山れき⁶⁾）が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。降雨時には、泥石流や土石流に注意が必要である。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） [噴火予報（活火山であることに留意）] ← 1 日に火口周辺

警報（火口周辺危険）から引き下げ

えびの高原（硫黄山）周辺では、2013 年 12 月頃から火山性地震の多い状態が続いていたが、2015 年 4 月頃から少ない状態となっている。2014 年 8 月 20 日には、硫黄山付近が震源とみられる火山性微動が発生したが、その後は発生していない。

GNSS³⁾ 連続観測では、えびの高原（硫黄山）周辺の一部の基線で、2013 年 12 月頃からみられた地盤の伸びの傾向は、2015 年 1 月頃から停滞している。

火山活動によると考えられる傾斜変動は認められない。また、噴気は認められず、赤外熱映像装置による観測では熱異常域は認められない。硫黄山周辺の全磁力繰り返し観測でも、地下の熱活動の高まりは認められない。

以上のことから、えびの高原（硫黄山）周辺の火山活動は低下しており、硫黄山周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断し、1 日 10 時 00 分に噴火予報を発表し、火口周辺警報（火口周辺危険）を解除した。

活火山であることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性があるため、留意が必要である。

桜島^{まくらじま}【火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）】

昭和火口では、爆発的噴火が 169 回発生するなど、活発な噴火活動が継続した。

弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾ は最大で 3 合目（昭和火口より 1,300~1,800m）まで達した。21 日 10 時 20 分の爆発的噴火では、噴煙が最高で火口縁上 4,300m まで上がった。

南岳山頂火口では、12 日に乳白色の噴煙が火口縁上 200m まで上がるごく小規模な噴火が発生した。

桜島島内の伸縮計⁷⁾ では、2015 年 1 月 1 日頃から山体の膨張を示す変化が継続している。桜島島内の傾斜計²⁾ では、2015 年 1 月以降、山体がわずかに隆起する傾向が続いていたが、3 月から 5 月にかけて停滞する傾向がみられる。今後、2012 年 7 月 24 日及び 2013 年 8 月 18 日以上の多量の火山灰を噴出する噴火が発生する可能性がある。また、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟む GNSS³⁾ 連続観測の基線では、長期的に始良カルデラ深部の膨張を示す伸びの傾向がみられる。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾ 及び火砕流に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石¹⁾（火山れき⁶⁾）が遠方まで風に流されて降るため注意が必要である。爆発的噴火に伴う大きな空振によ

って窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流に注意が必要である。

薩摩硫黄島^{さつまいおうじま}【噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）】

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口周辺では火山ガスに注意が必要である。

口永良部島^{くちのえらぶじま}【噴火警報（噴火警戒レベル 5、避難）及び火山現象に関する海上警報】←29 日に噴火警戒レベル 3（入山規制）から引上げ、火山現象に関する海上警報を発表

口永良部島の新岳では 29 日 09 時 59 分に爆発的噴火が発生し、黒灰色の噴煙が火口縁上 9,000 m 以上に上がった。この噴火に伴い発生した火砕流が、新岳の南西側から北西側（向江浜地区）にかけて流下し、北西側では海岸まで達した。

このため、同日 10 時 07 分に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 5（避難）に引上げた。また、同日 10 時 34 分に火山現象に関する海上警報を発表した。

同日、国土交通省九州地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、火砕流は新岳火口からほぼ全方位に流れており、新岳北西側への流下が顕著であることを確認した。また、新岳南西側及び南東側でも中腹まで流下しているのを確認した。

噴火発生直後には、火山性地震が増加していたが、同日 13 時以降は少ない状態となっている。

今後も、29 日と同程度の噴火が発生する可能性がある。

大きな噴石¹⁾ の飛散及び火砕流の流下が切迫している居住地域では、厳重な警戒（避難等の対応）が必要である。



口永良部島 爆発的噴火に伴う噴煙と火砕流の状況（29 日 10 時 02 分 本村から撮影）

すわのせしま
**諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、
火口周辺規制）]**

おたけ
御岳火口では、5 日と 17 日にごく小規模な噴火が発生するなど、活発な火山活動が継続した。

諏訪之瀬島では、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石¹⁾が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

つるみだけ がらんだけ
鶴見岳・伽藍岳 [噴火予報（活火山であることに留意）]

くじゅうざん
九重山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

うんぜんだけ
雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

きりしまやま おほち
**霧島山（御鉢） [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山
であることに留意）]**

- 1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがある。
- 3) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。
- 4) 火山ガスと火山灰等の混合物が、水面や地表面を高速で横方向に広がり、地表の物を巻き込む現象。人体や建物、船舶等に大きな被害を与える恐れがあり、とても危険である。
- 5) 阿蘇山では、火口内の火山灰や噴石を噴出する孔を火孔と呼んでいる。火山活動に伴い、火孔の位置が変わったり、同時に複数個の火孔が開いたりしたことがあり、明瞭に区別するために、141 火孔のように西暦の下 2 桁と通し番号で命名している。
- 6) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。
- 7) 火山活動による地殻の伸び縮みを観測する機器。マグマ溜まりや火道内の圧力増加によって生じる火口周辺の変化が観測されることがある。

表 2 平成 27 年 5 月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報等の発表履歴

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報		概要
		種類、号数等	発表日時	
口永良部島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)	解説情報第 36 号 ～41 号	1 日、8 日、11 日、 15 日、18 日、22 日 16 時 00 分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況。
		解説情報第 42 号 ～43 号	23 日 10 時 45 分 25 日 16 時 00 分	23 日に発生した震度 3 の地震の状況。現地調査の状況。
	噴火警報 (噴火警戒レベル 5、避難)	噴火警報	29 日 10 時 07 分	29 日 09 時 59 分に爆発的噴火が発生し、火砕流が海岸まで到達したことから、噴火警報（居住地域）を発表し、噴火警戒レベルを 3 から 5（避難）に引き上げ。
		解説情報第 44 号	29 日 10 時 40 分	
		火山活動解説資料	29 日 11 時 30 分	
		火山現象に関する海上警報	29 日 10 時 34 分	新岳火口から半径 2 海里以内の周辺海域警戒。
		降灰予報（速報）	29 日 10 時 09 分	噴火発生から 1 時間以内に予想される降灰量分布や小さな噴石の落下範囲を予想。
		降灰予報（詳細）	29 日 10 時 25 分 29 日 11 時 00 分	噴火発生から 6 時間先までに予想される降灰量分布や降灰開始時刻を予想。
		解説情報第 45 号 ～47 号、49 号	29 日 16 時 00 分 30 日 10 時 00 分 30 日 16 時 15 分 30 日 19 時 00 分 31 日 10 時 00 分 31 日 16 時 00 分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況。
		解説情報第 48 号	30 日 19 時 00 分	火山噴火予知連絡会拡大幹事会の見解。
火山活動解説資料	29 日 21 時 50 分 30 日 16 時 35 分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。上空からの観測の状況		
御嶽山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)	解説情報 第 57 号～61 号	1 日、8 日、22 日、 29 日 16 時 00 分 15 日 16 時 08 分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況。
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)	降灰予報（速報）	5 日 20 時 45 分 8 日 11 時 41 分 8 日 12 時 51 分 8 日 15 時 00 分 8 日 15 時 20 分 8 日 21 時 25 分 10 日 08 時 31 分 10 日 09 時 58 分 10 日 12 時 04 分 10 日 15 時 58 分 10 日 18 時 15 分 10 日 19 時 33 分 10 日 20 時 32 分 13 日 10 時 03 分 13 日 12 時 13 分 13 日 13 時 16 分 13 日 15 時 39 分 13 日 17 時 53 分 13 日 17 時 53 分 13 日 21 時 16 分 13 日 22 時 11 分 14 日 04 時 29 分 14 日 09 時 08 分 15 日 10 時 13 分 17 日 07 時 14 分 17 日 09 時 07 分 17 日 15 時 30 分 17 日 17 時 42 分 17 日 23 時 21 分 19 日 06 時 08 分 21 日 06 時 30 分 21 日 09 時 52 分 21 日 10 時 34 分 21 日 12 時 49 分 26 日 05 時 17 分	噴火発生から 1 時間以内に予想される降灰量分布や小さな噴石の落下範囲を予想。

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報		概要
		種類、号数等	発表日時	
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)	降灰予報（速報）	29日 14時35分 29日 17時21分	噴火発生から1時間以内に予想される降灰量分布や小さな噴石の落下範囲を予想。
		降灰予報（詳細）	5日 21時00分 8日 12時00分 8日 13時10分 8日 15時15分 8日 15時37分 8日 21時38分 10日 08時45分 10日 10時13分 10日 12時22分 10日 16時17分 10日 18時30分 10日 19時50分 10日 20時50分 13日 10時20分 13日 12時30分 13日 13時35分 13日 15時55分 13日 18時06分 13日 21時32分 13日 22時26分 14日 04時44分 14日 09時23分 15日 10時28分 17日 07時32分 17日 09時23分 17日 15時45分 17日 18時00分 17日 23時38分 19日 06時25分 21日 06時45分 21日 10時14分 21日 10時50分 21日 13時05分 21日 13時25分 21日 15時20分 21日 20時30分 26日 05時30分 29日 14時50分 29日 17時40分 29日 18時10分 30日 02時55分	噴火発生から6時間先までに予想される降灰量分布や降灰開始時刻を予想。
		解説情報第29号～36号	1日、11日、15日、18日、22日、25日、29日 16時00分 8日 12時10分 8日 16時10分	爆発的噴火による大きな噴石の飛散状況。傾斜計・伸縮計・地震回数等火山活動の状況。
蔵王山	火口周辺警報 (火口周辺危険)	解説情報第19号～27号	1日、4日、8日、11日、15日、18日、22日、25日、29日 16時00分	地震回数、微動の発生状況等火山活動の状況。
		火山活動解説資料	27日 10時30分	26日に実施した上空からの観測の状況。
吾妻山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	火山活動解説資料	6日 13時30分	3日から増加した火山性地震、6日に観測された火山性微動等火山活動の状況。
		解説情報第28号～31号	7日、11日、18日、25日 16時00分	噴煙・傾斜計・地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況。
草津白根山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	解説情報第20号～24号	1日、8日、15日、22日、29日 16時00分	傾斜計・地震回数等火山活動の状況。

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報		概 要
		種類、号数等	発表日時	
箱根山	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)	解説情報第 1 号 ～ 4 号	3 日 18 時 00 分 4 日 16 時 00 分 5 日 10 時 15 分 5 日 16 時 00 分	4 月 26 日から増加した火山性地震、現地調査結果等、火山活動の状況。
		火山活動解説資料	4 日 19 時 10 分 5 日 17 時 00 分	震度 1 を観測した火山性地震等火山活動の状況。現地調査の状況。
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	火口周辺警報	6 日 06 時 00 分	4 月 26 日から火山性地震が増加していることなどから、火山活動が高まっていると考えられ、今後小規模な噴火が発生する可能性があるため、火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）に引き上げ。
		火山活動解説資料	6 日 08 時 00 分	
		解説情報第 5 号	6 日 16 時 10 分	蒸気の噴出状況、地震の回数等火山活動の状況。上空からの観測の状況。
		解説情報第 6 号 ～ 31 号	7 日～31 日 16 時 00 分	蒸気の噴出状況、地震の回数等火山性地震等火山活動の状況。
火山活動解説資料	6 日 18 時 00 分 8 日 19 時 10 分 13 日 19 時 40 分 15 日 11 時 00 分	蒸気の噴出状況、地震の回数等火山性地震等火山活動の状況。上空からの観測、現地調査の状況。		
阿蘇山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	解説情報第 34 号、 第 36 号～42 号	1 日、8 日、11 日、 15 日、18 日、22 日、 25 日、29 日 16 時 00 分	噴煙等噴火活動の状況。現地調査の状況。
		解説情報第 35 号	4 日 12 時 40 分	3 日に震度 1 を観測した火山性微動・空振の状況。現地調査の状況。
		降灰予報（速報）	1 日 15 時 49 分	噴火発生から 1 時間以内に予想される降灰量分布や小さな噴石の落下範囲を予想。
		降灰予報（詳細）	1 日 15 時 43 分 1 日 21 時 00 分	噴火発生から 6 時間先までに予想される降灰量分布や降灰開始時刻を予想。
十勝岳	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)	火山活動解説資料	14 日 11 時 30 分	13 日から増加した火山性地震の状況等火山活動の状況。
浅間山	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)	解説情報第 1 号 ～ 4 号	22 日 15 時 45 分 22 日 16 時 15 分 25 日 16 時 00 分 29 日 16 時 00 分	4 月下旬頃から増加した火山性地震の状況等火山活動の状況。上空からの観測の状況。
		火山活動解説資料	23 日 18 時 10 分	
霧島山（えびの高原（硫黄山）付近）	噴火予報 (活火山であることに留意)	噴火予報	1 日 10 時 00 分	火山活動が低下していることから火口周辺警報を解除。
		火山活動解説資料	1 日 10 時 30 分	

注) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

この他、三宅島においては毎日 07 時と 17 時に火山ガス予報を発表している。

阿蘇山、桜島、諏訪之瀬島においては、毎日 02 時から 3 時間毎に 8 回降灰予報（定時）を発表している。

口永良部島においては、5 月 29 日 17 時以降、毎日 02 時から 3 時間毎に 8 回降灰予報（定時）を発表している。